

シンポジウム 「産業界は、『農芸化学』に対して どのような研究と人材育成を望んでいるか？」

日時 2012年3月24日（土）14:45～17:00

会場 京都女子大学（Q校舎301）

主催 日本農芸化学会「産学官学術交流委員会」
「産学官若手交流会（さんわか）」

講演：「経営トップから見た農芸化学」

- (1) 松田 譲 氏（協和発酵キリン株式会社・代表取締役社長）
(2) 池田直之 氏（池田糖化工業株式会社・代表取締役社長）

パネルディスカッション：

「農芸化学が真の実学として発展し続けるためには今何が必要か」

【司会】 穴澤秀治 氏（産学官学術交流委員会担当理事）

【パネリスト】松田 譲 氏、池田直之 氏、長田裕之 氏（理化学研究所）

農芸化学出身の経営トップに聞く、将来の農芸化学！

「農芸化学」は、産学官連携を軸に実学として発展してきた学問です。一方で、「最近の農芸化学の産学官連携に元気が無い」と言われます。それは何故なのでしょうか？

本シンポジウムでは、農芸化学ご出身で現在経営トップとしてご活躍されている先生方に、企業における農芸化学分野の研究・開発の事例をご紹介いただきます。そして、現在の農芸化学に対する本音を伺い、将来の農芸化学の目指すべき姿を考察する機会にしたいと思います。

- ・「農芸化学」研究者を志す学生さん
 - ・「農芸化学」分野に就職を希望する学生さん
 - ・「農芸化学」の研究教育に迷える大学の先生方
 - ・「農芸化学」分野の大学との付き合いに悩まれている企業の方
- このような方々、必聴です！ご来場をお待ちしております。

問い合わせ先 E-mail: sanwaka_open@jsbba.or.jp

講演者・パネリスト・司会者のご略歴

松田 譲 氏

- 1977年3月 東京大学大学院 農学系研究科博士課程修了 農学博士
1977年4月 協和発酵工業株式会社に入社
1985年3月 米国立衛生研究所 派遣(1986年6月まで)
1985年4月 同社 東京研究所 主任研究員
1996年4月 同社 東京研究所 研究推進室長
兼 安全環境管理室長
1999年6月 同社 富士工場 医薬総合研究所 探索研究所長
2000年6月 同社 執行役員 医薬総合研究所長
2002年6月 同社 常務取締役 総合企画室長
2003年6月 同社 代表取締役社長
2008年10月 協和発酵キリン株式会社 代表取締役社長(現)



池田 直之 氏

- 1989年3月 京都大学農学部食品工学科卒
1989年4月 池田糖化工業株式会社入社
1989年10月 同社 製造部
1992年4月 同社 システム部
1993年4月 同社 総務部総務課
2000年4月 同社 総合企画室室長
2001年7月 同社 取締役就任
2003年7月 同社 専務取締役就任
2009年7月 同社 代表取締役社長就任



穴澤 秀治 氏

- 1982年3月 東京大学大学院農学系研究科博士課程修了 農学博士
1982年4月 協和発酵工業株式会社に入社
1990年6月 オランダアムステルダム自由大学派遣(1991年8月まで)
1992年4月 同社東京研究所主任研究員
2004年4月 同社研究本部担当部長
2008年10月 バイオインダストリー協会出向 事業企画部長、国際担当部長
2010年4月 同協会 先端技術開発部長、国際担当部長(現)

長田 裕之 氏

- 1983年3月 東京大学大学院 農学系研究科博士課程修了 農学博士
1983年4月 理化学研究所入所 抗生物質研究室
1985年9月 米国 NIH(国立癌研究所)Fogarty Fellow(1986年10月まで)
1992年4月 理化学研究所 主任研究員(抗生物質研究室)(現)
2008年4月 理研 基幹研究所 ケミカルバイオロジー研究領域長(現)

第4部 ポスターディスカッション(産学官連携研究の実際～シーズから応用へ～) および技術交流会(懇親会)のご案内 A校舎地下にて開催(18:00～20:00)

本企画では、新しい価値の創造を目指した創意工夫／産学官連携による研究開発の推進について、さんわかが独自に全国から選出しました18例を紹介します。研究シーズの発掘から実用化に向けた開発まで、研究の着眼点やストラテジーなどについて、幅広い研究者、特に若手研究者が自由に意見交換できる場を設けたいと考えています。

第4部は飲料を手にしながらの交流会形式となっております。皆様奮ってご参加ください。

* 発表演題等、詳しい内容は大会要旨集、さんわかHP(<http://www.jsbba.or.jp/event/sanwaka/>)をご覧下さい。

